

第33期第8回京都市社会教育委員会議の模様を マナビィがレポート！

令和元年6月17日（月）午前10時～12時、京都市生涯学習総合センター（京都アスニー）にて、第33期京都市社会教育委員会議の第8回会議が開かれました。
会議の模様をマナビィがレポートします！

■ 出席委員（17名のうち11名）※五十音順

稻垣 恭子 委員、大八木 淳史 委員、久保川 芳弘 委員、齊藤 修 委員、
佐伯 久子 委員、鈴鹿 可奈子 委員、園部 晋吾 委員、本郷 真紹 委員、
桝木 良子 委員、森 清顕 委員、吉川左紀子 委員



第33期第8回社会教育委員会議次第

開 会

1 議 事

- (1) 第33期の審議内容を振り返って、第34期に向けての提言 資料1
(2) 「令和元年度指定都市社会教育委員連絡協議会（名古屋市）」への出席者について 資料2

2 報 告

- 「京（みやこ）まなびミーティング」について 資料3

3 主催事業及び刊行物の案内・説明

閉 会

開会 [齊藤議長]

■ 議 事-1 第33期の審議内容を振り返って、第34期に向けての提言

- 稲垣 恭子 委員（京都大学大学院教育学研究科長）



生き方探究館や京都市学校歴史博物館など、テーマを決めて見学もあり、普段行くこともない所に行かせていただき、非常に勉強になりました。

京都市で、社会教育というコンセプトに応じて、毎年、連続的に取り組むものと現在のニーズがあるものを組み込む2本立てでテー

マを設定していく必要があると思います。同じ校区での調査を計画的に行い、その変化や成果を委員会としてわかるような形で共有していくことが大切だと思いました。

また、広報では、イベント情報が多くありすぎて、情報が必要な人に行き届いているのか、どの程度利用されているのか気になりました。子ども向けや高齢者向け、観光客向け等、対象者向けに群を分け、広報の仕組みを見直すほうがいいと思いました。

○ 大ハ木 淳史 委員（ラグビー元日本代表、丸貴管鋼株式会社顧問）



今期を振り返りますと、バラエティにとみ、様々な場所を実際に訪れて見ることは、有効だと感じています。

例えば、SNSで会議をライブで流す取組や、もう少し傍聴してもらえる所で会議をしてみるなど、今まで思っている当たり前のこととは違う切り口で会議をやってみると、変化が出て発信ができるのではないかと思います。

京都は世界的にも様々な意味でブランド力があると思いますので、その京都の社会教育委員というのは非常に重いものを担っていると感じていました。

○ 久保川 芳弘委員（平成29年度京都市P T A連絡協議会会长）



西陣中央小学校の見学は、自分の子どもが通っている小学校以外を見ることはなかったので良かったです。読書については、中高生になると勉強と部活が忙しくてなかなか時間がとれない現実があり、これはうちだけではないということがわかりました。教育委員会でもその対策を考えいただき嬉しく思いました。

レジリエント・シティの取組は、私も様々な場所で発信していくかないといけないと感じました。インスタ等を利用するなど広報を工夫し、関心を持つ方が増えることが、より良い社会に繋がるのではないかと思います。

○ 鈴鹿 可奈子 委員（株式会社聖護院ハツ橋総本店専務取締役）



今期は見学が多く、実際にその場に行く機会を設けていただき、様々な役割を担う場所があると知ることが大事だと思いました。現場の生の声を聞けて良いかと思います。

また、会議全体のことですが、子どもの読書のことなどは、世帯で考えていてもどうしようもない部分もあります。解決策を会議で話合って、率先して実行し、世帯に浸透していくべきかと思いません。

社会教育委員になるまでは、私自身、アスニーに来ることはなかったので、事業が多くあることを知りませんでした。どうすれば知る機会が増やせるのかが課題ではないかと思

っています。

- 園部 晋吾 委員（NPO 法人日本料理アカデミー地域食育委員会委員長、山ばな平八茶屋若主人）



様々な場所を見学させていただき、今まで全然知らなかったこと、触れていなかったことに触れ、多くのことを感じました。また、様々な委員の方々の意見は非常に勉強になりました。

行政の方が民間の意見を聞くことは、非常に重要な場だと思います。私は料理屋の中にいると料理屋以外のことはわかりませんが、料理屋以外の意見も聞くことで、自分なりの幅広い見方、考え方も出てきましす、これは大事なことです。そういった意味でも会議は形骸化してしまうとダメだと思います。意見を吸い上げていただいて、一部でも意見を取り上げていただければ、この会議の意味が大きくあると思います。

- 本郷 真紹 委員（学校法人立命館理事補佐、立命館大学文学部教授）



大学に籍をおく者として実感したのが、京都市ならではの資源を活かしきれていないことです。資源の1つは、京都市ならではの歴史的、文化的資産。もう1つは学生の割合が多いことです。学生の若い力を本当に活かしきれているのか、疑問です。

ご承知の通り、ドラスティックに学校教育のスタイルが変わってきており、高等学校でも探究型が学習指導要領で打ち出されています。体験させる中で多くの学びを気づかせるようにスタイルが変わっていく中、大学で講義をしていても、これからは開講型大学が増えていくであろうと思います。つまり、自由にフィールドの中に入り、市民の方と触れ合うことが出てくる、大学に多くの方に来ていただき、世代を超えた高齢者と学生、あるいは学生と児童、生徒と触れ合うことで、学びと成長に繋がっていきます。

大学の授業は忙しいため、ボランティアを超えた形で単位認定できる形にするなど、市と大学が協議してシステムを作っていくことが大事です。その時に社会教育委員の意見を聞いて、具体化することが非常に大きい意味を持つのではないかと思います。

- 枝木 良子 委員（同志社大学日本語・日本文化教育センター嘱託講師）



施設見学は、私自身も勉強になり、考えさせられることや勉強不足だと思うことが多くありました。

また、テーマについて、小中高の制度や地域活性のこと等、様々な社会の問題も取り上げられているのですが、どのような経緯でテーマが決まるのか、疑問に思うこともありました。ここで発言したことが、どのようにフィードバックされているのか、市民の方にどのようにお

知らせいただくのか知りたいです。

○ 森 清顕 委員（清水寺執事補・上智大学グリーフケア研究所非常勤講師）



様々な会場を見て、その空気感を知るのは、我々の議論の中にも反映されると思いますので、来期もしていただけたらありがとうございます。

継続的に審議すべき問題が多くある気もしますが、今期を通して感じていたのは、「子どもの読書」や「学校と地域の在り方」というテーマは、「子どもの問題」と思いがちですが、実際は、親や周りが問題です。親や周りの大人が意識を変えていかないといけないことも、議論の中で追加されていくと嬉しいと思います。

来季に向けて、継続的なことに関しては「8050問題」。40～50代の世代が、非正規で安定的な生活ができていないのに、80代の親の介護が始まってしまう、そうすると自分の生活で精一杯で、社会参加が到底考えられないことが起こってきていると思います。社会教育の中において社会構造の話になり、ここで議論する枠を越えているかもしれません、そういう社会生活、社会教育を考えていかないといけないと思っています。

○ 吉川 佐紀子 委員（京都大学こころの未来研究センター教授）



会議では、各種報告の時間と意見交換の時間があるわけですが、委員の間での意見交換の時間がなるべく長くとれるといいと思います。普段、大学の中にいると、市政のリアルな問題について知る機会も十分ではないので、市の担当の方々が持つておられる問題意識や、「これは是非解決したい」と考えている課題などを社会教育委員の方に投げていただき、委員がそれぞれの立場から意見を出し合う、といったキャッチボールができると、有意義ではないかと思います。

今期は、毎回様々な場所で会議が開催され、普段あまり考えてなかったことに改めて注意を向けて考える機会になり、勉強になりました。

また、現在、京都市全体として取り組んでいる喫緊の課題があると思うのですが、こうした課題に対して、社会教育、生涯教育という視点から見たときに、どのような取り組みやアプローチができるのか、といった問題提起があってもいいかなと思います。

吉川 課長

○ 片山 九郎右衛門 委員（観世流能楽師）【欠席のため事務局から紹介】

仕事の関係上、出席の叶わないことも多々ありましたが、色々なお考えにふれ、また教育への行政側の立場にも直にふれることができた事は貴重な体験でした。

この10年以上、全国各地の小・中学校へ赴き、かなり色々な学校の様々な子どもたち、先生方、また地域のボランティアの人々、そして土地の古老の方々ともふれあい、

手探りで交流を深めてまいりました。それでもわからないことがたくさんありましたが、今回の会議に参加させていただいたお陰で自分たちがこれから行こうとする道が少しがら見えてきた気がいたします。

感謝、感謝。

○ 橋元 信一 委員(日本労働組合総連合会京都府連合会顧問)【欠席のため事務局から紹介】

他の公務と重なり、本日の第 8 回社会教育委員会議に出席がかないませんことにお許しを頂きたいと思います。

33期の会議を振り返って、日本労働組合総連合会京都府連合会会長としての立場で参加をさせて頂きました。多くの若者が社会で働くという意味や大切さを理解して頂き、働いてからも少しでもゆとりある生活ができ、結婚・出産・子育てができ、楽しい家庭作りをするにはどうすればいいのかという思いで発言させて頂きました。

34期に向け、社会教育委員会議で議論頂いた議題について、委員が次回に報告をする時間があっても良いのではないのでしょうか。

昨年 10 月に日本労働組合総連合会京都府連合会会長を退任致しまして、現在、近畿労働金庫京都地区本部長として、全く逆の立場で勤務をしています。その立場を社会教育委員会議に生かせればと思っています。

人生 100 年社会に進むと言われています。多くの若者や様々な人々に色々な発信が出来ればと思っています。労働者の近畿労働金庫の歴史を、知っていただき活用していただきたく思います。

○ 佐伯 久子 委員(京都市地域女性連合会会長)



今期は、会場が変わったことで、普段でしたら足を運ぶことがないところに行き、キャリア教育等の活動内容を初めて知ることができ、貴重な体験でした。支援学校で、先生方と地域が一生懸命に活動されているのは良いことだと感じました。

また、私自身は京都市地域女性連合会で 50, 80 世代と言われているメンバーの中にいますので、この会議では様々な分野の先生方がお話し、新鮮な場所もありました。

これらからは地域の小中学校の学校運営協議会委員として、ここで学んだことが反映できたらと思っております。

○ 斎藤 修 委員(京都新聞社総合アドバイザー)

今期の会議は、事務局からテーマを出されて皆さんの意見を聞く形で進めてきました。各専門分野からエキスパートの方々のご意見を聞くことだけでも十分意義がありますが、来期以降は、それぞれのテーマについて相互に意見を戦わせるような形のもの、成果が「今日はこれだったね」と見えるようにできれば、さらに良いと思っております。そのために、



新しい期の最初の会議に先立って、委員が集まり、コーヒーを飲むようなリラックスしたなかで、社会教育、生涯教育について、ざっくばらんに思うところを述べ合い、意見交換をし、それぞれの専門分野を互いに分かり合ったうえで、意見を重ねれば、より成果が出るのではないか。今回、高い評価がありました。テーマによって場所を変えることは、刺激を受けて議論が弾むので、続けていただけたらなと思います。

少子高齢化の中で様々な新たな問題が出てくると思います。リタイアした人達の再教育とか外国の方との共生の問題、社会教育委員会議の役割がますます大きくなると思っております。

議事 -2

「令和元年度指定都市社会教育委員連絡協議会（名古屋市）」への出席者について

報告 「京（みやこ）まなびミーティング」について

4月19日に、京都アスニーの人気講座「ゴールデン・エイジ・アカデミー」とタイアップし、本郷真紹委員に、「御願寺（ごがんじ）の創建—皇族・貴族の仏教信仰—」と題してご講演いただきました。

また、6月1日には、醍醐中央図書館 連続講座「醍醐味講座」とタイアップし、大八木淳史委員に、「ラグビーワールドカップがやってくる～元日本代表が楽しみ方を教えます！」と題し、ご講演いただきました。

講演の動画とレポートは、[京まなびネット](#)で公開します。

刊行物紹介

閉会 [齊藤議長]

過去の講演は、[京まなびネット](#)
上「動画で学ぶ」コーナー
で視聴できるよ。



閉会挨拶 [在田教育長]